

# 突 発 性 発 疹

生後3か月から1才半の時期にほとんどの赤ちゃんがかかります。生後初めての発熱の多くがこの病気です。突然高い熱が出るのでびっくりしますが、重症な感じはありません。HHV-6(ヒトヘルペスウイルス6型)あるいはHHV-7が原因ですが、大人(お母さん)の唾液中にいるウイルスが赤ちゃんに感染すると考えられています。なお約40%の子どもは、感染しても症状のない不顕性感染となります。

**症状** 急に高い熱(38~40度)が出て2~4日間続き、熱が下がった後ですぐに体中に発疹が出ます。発疹は2~3日で消失し、治ゆします。便がゆるくなることもあります。鼻水やせきなどの症状はほとんどありません。高い熱のわりに気嫌が良いのが特徴です。

## 診断

下の図のような典型的な経過で診断がつきます。しかし高熱だけの時期には他の病気との鑑別が難しいことも多く、血液検査などをすることもあります。

## 合併症

高熱のために熱性けいれんを起こすことがあります。また、非常にまれですが、脳炎や脳症の合併もあります。

## 治療と看護

特別な治療はなく、高熱や下痢、けいれんに対する対症療法となります。下熱剤を使いたくなりますが、**かえって熱性けいれんが起きやすくなりますので、なるべく使わない方が良いでしょう。**発熱に関しては、「発熱について」のパンフレットを参照して下さい。下熱後、一般状態が良ければ入浴させても結構です。

